

研究計画書

ゼミ名	後藤ゼミⅡ	チーム名	後藤ゼミ 6 期生
タイトル	生まれ月によって人生に差がでるのか？ ～職種・年齢別の分析～		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	森川将・糸満一将・津田絵梨・松浦直子・浜田裕斗・森田圭・ 北田拓己・結城美和・福井啓二郎・渡邊崇弘・仲谷拓人・新居剛史・ 山下翔平・西田由里加・真鍋佳恵・島名理子・橋本卓弥・島田航也・ 梶田貴一・丹羽沙世子・菊田淑子		
研究計画内容	<p>〔研究の背景〕</p> <p>幼稚園，小学校，中学校，高校などを共に過ごしてきた“同級生”の中には，4月に生まれたヒトもいれば，約一年後に生まれたヒトもいる．0歳の時は，4月に生まれたヒトが歩いたり，喋ったりすることが出来る時期に，3月生まれの子が生まれる．この生まれ月による発育の差は人生のどの段階まで影響するのだろうか．また生まれ月の差は運動，学業などの分野によって変わるものなのだろうか．少子化の現代，子供の成長，教育は親だけではなく社会全体の関心事である．</p> <p>〔研究の目的〕</p> <p>ヒトは自分の「出生月」を選ぶことができない．本研究では，ヒトの人生の出発点である「出生月」が，ヒトの人生にどのような差をもたらすのかを実証的に分析し，その原因を経済学の観点から明らかにする．「出生月」による差がヒトに与える問題を考察することで，より望ましい子育ての可能性を明らかにする．</p> <p>〔研究の手法〕</p> <p>「出生月」による人生の差として，成功の実績を指標に考える．プロ野球選手，プロサッカー選手，子役タレント，上場企業社長，国会議員の生年月日をサンプルとして収集する．収集したデータより，1月から12月の期間で「出生月」に偏りがあるかどうかを統計学的検定を用いて分析する．</p> <p>〔研究の成果〕</p> <p>本研究で期待される成果は，意思決定が不可能な「出生月」のもたらす差の本質を明らかにすることで，自由で望ましい“生きかた”の経済学的洞察を導くことである．人生の出発点であり，最も感動的な瞬間である「誕生」という出来事が，新生児の将来の幸せを左右しないための子育てや制度を提唱したい．</p>		